

1.6 芸術専門学群

学生の確保 (人)	年次		定員	志願者	受験者	合格者	入学者	
	1年次		100 ※－ (100)	655 ※1 (662)	655 ※1 (662)	124 ※1 (129)	119 ※1 (119)	
	編入学・再入学		－ ※－ (－)	－ ※－ (－)	－ ※－ (－)	－ ※－ (－)	－ ※－ (－)	
学生の進路 (人)	卒業生	就職者	就職者の内訳			研修医	進学者	その他
			企業	教員	公務員			
	107 ※－ (104)	36 ※－ (36)	35 ※－ (33)	－ ※－ (1)	1 ※－ (2)	－ ※－ (－)	28 ※－ (32)	43 ※－ (36)

・ () は前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

1 芸術専門学群の活動

【教育】

平成15年4月芸術教員会議運営委員会、学群教員会議の議を経て平成15年度芸術専門学群重点課題を以下のとおり定め、方針に沿って推進することとした。

- 学群教育課程の再検討及び将来計画 ①教育体制の検討，外部評価の推進 ②特別カリキュラム・芸術支援学，クラフト，情報デザインの実施と充実 ③厳正な評価とFDの推進 ④学務システムの効果的活用
- 入学試験に関する検討事項 ①推薦入試における各高校の推薦人数枠 ②入試募集人員の配分比率 ③AC入試への対応 ④新設分野の受験生への周知，広報方針
- 施設・設備の充実 ①新分野・専攻枠組みに伴う施設・設備の充実と有効利用 ②講義・演習・実習に伴う共通機器等の整備
- 教育体制の充実（学系と連携）①教員人事の適切な運用 ②後任補充の促進 ③非常勤講師の効果的雇用
- 教育資料の整備（学系と連携）①芸術資料（教官及び学生作品）の収集 ②表彰制度の充実 ③芸術教育に関する歴代資料の収集 ④図書（文献）資料・写真資料の積極的収集

(1)について ①構成・デザイン専攻を改組し教育を実施。外部評価について芸術全組織が実施，報告書を3月に発行した。②特別カリキュラム芸術支援学，クラフト，情報デザインは本年開講した。③芸術FDとして2種のアンケート実施，教育研究に関するアンケート・受講者一授業担当者コミュニケーションカードを実施した。④TWINSは特に新1年生の履修申請について慎重に実施し有効に活用 (2)の①は各校分野の異なる志願者は2名まで推薦可として実施し，志願者が増加した。②平成18年度より変更 ③AC入試では良い学生を確保できた。(3) ①新分野クラフト・情報デザイン等の機器を補充した。(4)教員人事は順調な運用が出来た。(5)芸術専門学群芸術賞（最優秀卒業制作）は学群経費を節約して資金を捻出し資料として買い上げた。

【学生生活】

クラス制度は芸術専門学群においては4年間有効に機能している。卒業制作展はその成果といえる。学生担当各委員はクラス連絡会で討議された案件について実現に協力している。キャンパスリニューアルの一環として学生控え室を芸術各分野の学生の協力で改装した。進路に関して作家を目指す学生もおり，就職感が一様でなく卒業1年経過後に態度決定という例も少なくない。卒業研究に制作と論文を課していることは本学の特徴であるが，就職活動を抑制する面がなくもない。教員の採用試験では多少合格者が増えている。

2 教員の教育業績評価の状況

全学委員，学群内委員，教育推進の努力に対する評価は適宜実施している。本年，学生による授業評価や教員の教育に対する取り組みについて調査が実施された。また外部評価を行い多くの教員の調査，資料作成への協力，企画調査室の協力，評価委員の真摯な検討と評価によって多くの教育の指針を得た。

3 自己評価と課題

平成15年度における教育に関しては，今後の教育改善のための様々な方針が具体化され，実現した。特別カリキュラム芸術支援学・クラフト・情報デザインなどの新分野が本年度から開設され，授業を開始した。外部評価が実行に移され，教員の一致協力した成果として資料集，報告書が作成された。ファカルティデイ・ベロブメントでは教員に対するアンケートや学生の授業評価が実施された。総合的にみて，本年の学群の目標に対する達成度は良好と自己評価する。